

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570400263		
法人名	社会福祉法人ほのぼの会		
事業所名	グループホーム花ごよみ		
所在地	滋賀県近江八幡市上田町1315-1		
自己評価作成日	平成22年8月31日	評価結果市町村受理日	平成22年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570400263&SCD=320&PCD=25
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇点2階		
訪問調査日	平成23年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで生きてこられた経験・趣味をこのグループホームでも生かし、その方らしく日々お過ごしいただけるよう心がけています。畑仕事の好きな方に安全に移動していただくようにスロープ・階段・手すりを新設し、読書の好きな方には、図書館に本を借りに行き、書の好きな方には習字を楽しんでいただき、茶道の心得のある方には、抹茶をたてていただき、家事の好きな方には食事作り、かたづけを手伝っていただいております。また、ご利用者様の青春時代に流行った歌・映画などビデオで見、懐かしんでいただいております。納涼祭には浴衣を着て参加していただき、家族様・地域の皆様と楽しんでいただきました。また地域密着型として地域の行事に参加させていただき、近隣の方々にお茶会やアレンジフラワー・唄声クラブ等の講師なっていただき、注連縄も毎年教えて頂いて作ったものを飾っています。地域の方々には、季節のとれたたの

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは社会福祉法人を母体とした特養、通所介護、居宅介護支援、多目的施設「遊楽庵」等総合福祉施設の敷地内に有り、本格木造住宅の落ち着いた佇まいの事業所である。玄関正面には理念を表現する「あなたらしく生きる」掲げ、職員のユニホームの胸にはマスコットの熊と「心を大切に」のロゴが縫い付けて、尊厳を重視した介護に重点を置く姿勢を前面に出そうと努めている。また管理者と職員は何でも相談出来る雰囲気の中で業務改善に取り組み、事業所運営に生かしている。きめ細かな介護の結果、利用者の明るい笑顔となって暖かい雰囲気を作り出し、家族の信頼と満足度の高い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個性を尊重し、あなたらしく生きるの理念のもと、地域に根差したグループホームを目指しています。穏やかにくつろげる快適な雰囲気づくり・人と人とのつながりを大切に、なじみの人間関係づくりに努めています。	理念4項目の3番目に「人と人とのつながりを大切にし、地域交流、馴染みの人間関係作りに努めます」と地域密着の理念を玄関に掲示している。全員が暗唱出来る位に浸透し、理念の共有と実践につとめている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	唄をボランティアで教えていただき、年末注連縄づくりを教えていただき、交流を図っています。また地域の行事(観桜会、コスモス鑑賞会、小学校の運動会等)に参加させていただき、納涼祭には地域の方々を招待しています。また月1回地元のお寺の住職さまの法話を聞いています。	自治会、老人会には加入していないが、歌指導のボランティアの来所、近隣から野菜を頂く他に、地域及び事業所の行事へ相互参加と交流は盛んである。毎月第3水曜日に明光寺のご住職に法話に来て頂いている。	地域自治会に入会し、可能なものから活動に参加して行って欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症をよく理解していただき、地域とのより深い交流のきっかけとなる。	運営推進会議構成員は多岐に亘っており、年6回の開催をうたっているが、今年度未だ3回である。議題も事業所の問題解決の相談やサービス向上に向けた議論が不足している。	省令に従い、2ヶ月毎に開催してほしい。各委員にはモニター役を担ってもらう等、参加者全員の協力でサービス向上に生かす運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	花ごよみだよりや法人の広報誌をお届けし、随時、どんな時でも相談をさせていただいています。	月1度訪問する以外に、市からの通達で解らない事を初め、各種問題について電話でも相談して連携を密にしている。毎月介護相談員2名を受け入れ、相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成23年7月20日・21日・22日と3日間に分けて施設内で身体拘束廃止に向けての取り組みに関する研修会を実施しました。	玄関は夜間以外は施錠していない。利用者の徘徊外出が解っても引き止める事はせず、職員は辛抱強く納得して帰るまで見守りに徹している。職員は本年も全員身体拘束についての研修会を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者については、研修を受講済み、役職会議等で再確認をしようとしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者については、研修を受講済み、役職会議等で再確認をしようとしている。人権について平成23年7月20日・21日・22日施設内で研修を実施しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはしっかり説明を行い、普段も気軽に伝えていただけるように心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を玄関に設置し、ご家族様やご利用者との日頃の会話の中で話しやすい雰囲気を作り、どんな小さなことでも受け止めるようにしています。	内外の相談窓口を開示し、玄関には目安箱を設置している。家族会はあるが運営についての苦情は無い。家族からの相談は物が無くなっている等多岐に亘って有り、記録として残していないが、都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う課内会議で意見を出せるようにしています。	毎月第2火曜日に課内会議を約2時間かけて実施している。運営に関する提案も議論されており、議事録も整備している。何でも話しが出来る雰囲気となっている事は、職員へのヒヤリングでも確認出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの良さを発見し、役割や責任を持っていただき、働き甲斐のある職場作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は全員受けられるようにし、法人外の研修については積極的に参加をしようとしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にあるグループホームとの連携を中心としネットを介して、情報交換がすぐできるシステムを使用しています。また、グループホーム会議に参加をするようになりました。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃の会話の中で話しやすい雰囲気を作り、どんな小さなことでも受け止めるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の申し込みに来ていただいた時から困りごと等をうかがい要望を承りながら、提案させていただくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	公共の機関に用具を貸し出してもらったり、図書館に本を借りに行ったり、個別に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様から学ばせて頂いていることを大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には安心していただくことを第一とし、花ごよみ便りを利用して、日ごろの生活の様子をお知らせし、家族会の行事を通じてコミュニケーションを図っています。また、ご利用者様の些細な変化も家族様に連絡をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が頻繁に来所されたり、ご近所にお住まいだった方が施設を訪問して下されたり、なじみの方の来所は大切にしています。	月に約20件の来訪者が有り、友人や知人の来訪も有る。家族の協力による外出で墓参り、自宅等馴染みの場との関係が続いている。友人に年賀便りを出す利用者もあり、積極的にサポートしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	さりげない席決めを行い、またくつろげるようにソファを置き互いに支えあうように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で声掛けをし、把握に努めています。	詳細なフェースシートや生活歴から、性格や価値観を理解し、家族との面談記録や気づき点を話し合い利用者の思いや意向の把握に努めている。課内会議等で職員は情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行いできる限り情報を把握できるように、また家族様が来られた時にも情報をいただくよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の健康状態や残存能力を職員全員が把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護方法やご利用者様のご様子を課内会議で話し合い、意見を出し合い、介護計画の見直しを3か月に1回実施しています。	利用者の意向や、家族とのヒヤリング、主治医の診断情報提供書等より介護計画を作成している。課内会議でのモニタリングによる見直しの要否に拘わらず、3月毎に見直しを実施して家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほのぼののシルバーシステムにて個別に記録しています、また課内会議でも話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	図書館やはつらつ館を利用し、今までの趣味を続けていただけるよう支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで子供さんのダンス、演奏、マジックにきてくださったり、奉仕作業としてそうじにきてくださったりと、ご支援をいただいています。また地元のお寺の住職様に月1回法話をさせていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の意向を尋ね、希望とうりにしています。また、往診にも来てくださいます。	利用者全員にかかりつけ医が有り、月に数回の往診がある。併設施設の看護師の来訪時、健康相談の協力がある。眼科、歯科だけは、家族の受診協力をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に相談に乗っていただきみなさんの状況を把握してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族様了解のもと情報を提供し、退院時にはこちらから病院に出向き情報をいただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になられた場合については家族様と話し合っているケースもあります。	看護師を配置する事が出来なくなり、本年5月より医療連携体制を外した。また医療連携体制資料には「看取りは実施しません」との記載が有り、契約書に両者捺印している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備え付け、消防署が実施している救急救命講習に参加しています。急変時には主治医に連絡を取り指示に従っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は、法人全体で実施しています。	法人傘下の各施設と共同で昨年11月と本年5月に実施した。消防署へ事前報告をしているが、消防署の立会、地域の参加協力は今回も無かった。消防設備点検は年2回実施し、緊急連絡網等は整備している。	次回以降消防署等の立会、応援を得て実施し、運営推進会議メンバーの協力も得て、地域住民並びに地域防災会とも連携して行う事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時等の声掛けはできるだけ小さな声で行っています。また、ご本人の意思を尊重するよう心がけています。	今年度も7月に全員プライバシー保護の研修会に参加した。個人情報関連の保管は鍵のかかるロッカーに保管している。日々の個人記録もパソコン2台で入力している。人格、誇りを損ねない話しかけが当日も認められた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人お一人りに応じた声掛けをし、わかりやすい説明をすることを心がけており、自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活ペースは大体決まっているが、その中で自分なりのペースで生活していただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動散髪を利用し、おしゃれとしてお化粧品も楽しんでいただけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることこれから皆さんでしていただけるよう、生きがいを持っていただけるようにしていきたい。	主に法人全体の配食サービスを受けている。朝食と日曜日の夕食及び記念日は、好物のメニューを聞いて作ったり、出前を頼んだりと変化をつけている。当日は配膳などを職員と一緒に楽しんで完食していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌に記録し、主治医とも相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	業務日誌に記録し、チェックをしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、見守り・介助等その方に合った支援を行っています。	個人毎の排泄パターンを把握し、排泄チェック表に記入している。おむつからの自立を支援した結果、全員布パンツ+パットに切り替える事に成功した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ジュウサーを購入し果物ジュースを作り水分を多く摂取できるように工夫しています。体操など気楽な運動は毎日行っています。水分摂取量は記録として残しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴していただく曜日や時間帯はおおむね決まっているが、タイミングを見て声掛けさせていただいています。	浴室、浴槽とも広く、暖房乾燥機を備えている。利用者全員入浴が好きで、午後ではあるが週3回入浴している。当日嫌がる人には翌日にと個人毎に対応・支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔等快適に過ごしていただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っています。説明書はいつでも目が通せるようにして職員が理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事をさりげなく分担して満足していただけるようこころがけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花の水やりや玄関の掃除など毎朝日課にして下さる方もおられ、買い物に出かけられる支援を行っています。	同一敷地内の法人関連施設の遊楽庵があり、カラオケ、お茶やお花が出来、日常的に利用しているので外出頻度は5回/週と多い。家族による外出の他に職員と共に日常的に近隣のスーパーや図書館に行っている。また季節毎に観光等遠出もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理はしりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかかってきたら受けられるように支援しています。家族様・知人からのハガキはともよろこばれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内から畑が見え、作物で季節を感じていただけよう、またそこへ行きやすいようスロープ・階段を新設しました。	天井は天窓になっていて明るく、テーブルには生花が2カ所活けてあり、壁には自作品や写真を飾り、居心地の良い居間になっている。また居間の横は広い掘りごたつの有る和室になっている。浴室、トイレ共整理整頓され清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新しくソファを置きゆったりとお話したり、テレビ・ビデオを見たりできるようにしました。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを家から持ってきていただけるように家族様にご提案しています。また消臭効果として居室に炭を置いています。	居室の入口には花ごよみらしく花の名前の札を掲げている。居室は広く、洗面所も有り、馴染みの家具や写真を飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。空調機を設置する他、竹炭入りの籠も掲げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで必要なドアは引き戸で開けやすいように、ドアの明り取り窓の形を変えて目印となるようにしています。また、中庭に出やすいように、スロープ・階段を新設しました。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催が少なくサービス向上につながる議論まで発展していない。	運営推進会議を年6回以上開催し、サービス改善につながる議論が生まれるようにする。	今年度3回開催し、今後奇数月に開催する予定です。議題も事業所からの報告だけでなく日常のご利用者様の生活等、話しやすい議題から進めていく。自己評価や外部評価の結果を報告し、改善に向けての話し合いと今後目標達成計画のモニター役を依頼し話し合いを具体化してゆきたい。	12ヶ月
2	35	本体特養と共に年2回の防災訓練を行っているが、毎回地域の消防団の方のご協力を頂けるまでにはなれていない。	地域の方々のさらなる関心や今以上のご協力を頂けるよう、様々なチャンスを生かして、相談を持ちかけたい。地元消防団の会議へ職員が参加させていただいたり、地域の皆様のご理解とご協力を頂けるようお願いしていきたい。	運営推進会議などで議題として議論していただくなど、地域の方々のご協力を今以上にいただけるようお願いし、施設の防災訓練にご参加いただけるようお願いがいく。	12ヶ月
3	2	法人として自治会に入会しているが、自治会活動にあまり参加できていない。	自治会行事に参加できるものは、積極的に参加していく。	自治会の中の老人会に参加できないものか運営推進会議でお願いし、参加させてもらえるよう交渉していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。